Cisco Prime Collaboration 9.0 移行ガイド

2012 年 10 月 23 日

Text Part Number: OL-27257-01-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system.All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Prime Collaboration 9.0 インストレーションおよび移行ガイド
© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

CONTENTS

はじめに iii

対象読者 iii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート iii

CHAPTER 1

移行の概要 1-1

サポートされている移行パス 1-1

推奨される移行作業の順序 1-3

ライセンスおよび移行 1-3

CHAPTER 2

Prime Collaboration への移行 2-1

Prime UOM および Prime USM からの移行 2-1

Prime UOM および Prime USM のバックアップ 2-1

Prime UOM および Prime USM のバックアップを Prime Collaboration 上で復元する 2-2

DDV 設定のバックアップと復元を Operations Manager ユーティリティを使用して行う 2-3

Prime UOM および Prime USM の移行後の作業 2-4

Prime CM からの移行 2-4

Prime CM のバックアップ 2-5

FTP、SFTP、または TFTP サーバへのリポジトリの作成 2-5

データのバックアップ 2-6

Prime Collaboration での Prime CM のバックアップの復元 2-6

Prime CM の移行後の作業 2-7

Prime UPM からの移行 2-7

Prime UPM のバックアップ 2-7

Prime Collaboration での Prime UPM バックアップの復元 2-8

セルフケア ユーザ移行スクリプトの実行 2-10

Prime Collaboration Provisioning の移行後の作業 2-11

移行スクリプトのメッセージ 2-11

CHAPTER 3

Prime Collaboration を使用する前に 3-1

Prime Collaboration へのログイン 3-1

Prime Collaboration Assurance を使用する前に 3-2

移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance 3-3

デバイス管理機能の変更 3-5
RBAC 機能の変更 3-5
Prime Collaboration Provisioning を使用する前に 3-6
移行時の機能サポート：Prime Collaboration Provisioning 3-7

APPENDIX A
ナビゲーション リファレンス A-1
Prime UOM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング A-1
Prime CM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング A-3
Prime UPM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング A-6

INDEX

はじめに

このマニュアルは、次のアプリケーションから Cisco Prime Collaboration（Prime Collaboration）に移行する方法を説明します。

- Cisco Prime Unified Operations Manager（Prime UOM）：スタンドアロン、共存、および混在インストール。
- Cisco Prime Unified Service Monitor（Prime USM）：共存および混在インストール。
- Cisco Prime Collaboration Manager（Prime CM）
- Cisco Prime Unified Provisioning Manager（Prime UPM）：簡易および拡張インストール。

移行の手順に加えて、このマニュアルには、Prime Collaboration の重要な機能の場所に関する情報が記載されています。

このマニュアルは Cisco Prime Collaboration 9.0 の複数の短いマニュアルの 1 冊です。Prime Collaboration に関するその他の作業、たとえばユーザ管理、デバイス管理、音声プロビジョニング、ネットワーク モニタリング、障害管理などを実行するには、『*Cisco Prime Collaboration 9.0 Documentation Overview*』に記載されている、すべてのマニュアルのリストを参照してください。

対象読者

このマニュアルは、インフラストラクチャ ベースのリアルタイム コラボレーション サービス、たとえばビデオ（TelePresence）やテレフォニー（VoIP）の設定およびメンテナンス（エンドポイント、管理サーバ、サービス固有ネットワーク デバイスなどが含まれます）を担当する音声およびビデオのエンジニアを対象としています。

Prime Collaboration アプリケーションは仮想サーバに展開されます。エンジニアは仮想サーバの設定と Linux コマンドを理解している必要があります。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

CHAPTER 1

移行の概要

Prime Collaboration は、Cisco Unified Communications Management ソフトウェア アプリケーションや Cisco Prime Collaboration Manager からの自動ソフトウェア アップグレードをサポートしません。これは、Prime Collaboration に移行するにはバックアップと復元、およびその他の必要な手順を実行しなければならないことを意味します。

（注） Prime Collaboration に移行する前に、移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance および移行時の機能サポート：Prime Collaboration Provisioning の項を確認することを推奨します。この製品の使用をすぐに開始できるようにするためです。

サポートされている移行パス

表 1-1 に、Prime Collaboration に移行できるアプリケーションのバージョンとインストールのタイプを示します。

表 1-1 移行パス

アプリケーション	サポートされるバージョン	サポートされるインストール タイプ
Cisco Prime Unified Operations Manager （Prime UOM）	• 8.6 • 8.7	• スタンドアロン • Prime USM と混在 • Prime USM と共存
Cisco Prime Unified Service Monitor （Prime USM）	• 8.6 • 8.7	• Prime UOM と混在 • Prime UOM と共存
Cisco Prime Unified Provisioning Manager （Prime UPM）	9.0	• Simple • Advanced
Cisco Prime Collaboration Manager （Prime CM）	1.2	該当なし

（注）　これらの製品の旧バージョンから Prime Collaboration に移行するには、最初にサポートされるバージョンにアップグレードし、次に Prime Collaboration に移行する必要があります。アプリケーションのサポートされるバージョンにアップグレードまたは移行する方法については、Prime Collaboration に移行するバージョンに対応するインストレーション ガイドを参照してください。

推奨される移行作業の順序

Prime Collaboration に移行するには、アプリケーションのデータをバックアップし、そのバックアップを Prime Collaboration インストール上で復元する必要があります。

表 1-2 に、Prime Collaboration 9.0 への移行に必要な作業と、各作業の詳細情報の参照先を示します。

表 1-2　移行作業

作業	コメント
1. Prime Collaboration の新規インストールを実行する	『*Cisco Prime Collaboration Quick Start 9.0*』を参照してください。 このマニュアルには、Prime Collaboration のライセンス オプション、前提条件、およびインストール手順の詳細が記載されています。ライセンスおよび移行も参照してください。 **（注）** インストールされた Prime Collaboration の設定作業は、ステップ 2 およびステップ 3 が完了するまで行わないように注意してください。
2. アプリケーションの完全バックアップを実行する	このバックアップは、すべてのライセンス ファイルおよびデータベース ファイルを保存します。 次を参照してください。 • Prime UOM および Prime USM のバックアップ • Prime CM のバックアップ • Prime UPM のバックアップ
3. バックアップしたデータを Prime Collaboration サーバ上で復元します。	Prime Collaboration インストールには、データを復元するのに役立つ移行スクリプトが含まれています。 詳細については、次の項を参照してください。 • Prime UOM および Prime USM のバックアップを Prime Collaboration 上で復元する • Prime Collaboration での Prime CM のバックアップの復元 • Prime Collaboration での Prime UPM バックアップの復元
4. 移行後の作業を実行します。	Prime Collaboration に移行した後で実行する必要がある作業の詳細については、Prime Collaboration Assurance を使用する前におよびPrime Collaboration Provisioning を使用する前にの項を参照してください。

ライセンスおよび移行

Prime Collaboration に移行した後で、評価ライセンスでサポートされている数よりも多くのデバイスを管理する必要がある場合は、アップグレード ライセンスを取得する必要があります。

（注）　Prime CM の場合は、アップグレード ライセンスではなく新しいライセンスを取得する必要があります。

使用可能なライセンス オプションに関する詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Quick Start 9.0*』および『*Cisco Prime Collaboration 9.0 Data Sheet*』を参照してください。ライセンスの管理に関する詳細については『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』を参照してください。

CHAPTER 2

Prime Collaboration への移行

ここでは、Prime UOM、Prime USM、Prime UPM、または Prime CM アプリケーションから Prime Collaboration に移行する手順を詳しく説明します。移行の手順を開始する前に、移行の概要の項の内容を確認してください。

Prime UOM および Prime USM からの移行

次のものから移行できます。

- Prime UOM のスタンドアロン インストール
- Prime UOM と Prime USM の混在インストール
- Prime UOM と Prime USM の共存インストール

（注） スタンドアロン Prime USM インストールからの移行は、共存設定の一部でない限りサポートされません。

Prime UOM から Prime Collaboration に移行するには、次の手順を実行します。

1. Prime Collaboration を仮想サーバにインストールします
2. Prime UOM/Prime USM のデータをバックアップします。

   Detailed Device View での管理対象状態情報をカスタマイズ済みであり、維持したい場合は、Detailed Device View 設定をバックアップして個別に復元する必要があります。「DDV 設定のバックアップと復元を Operations Manager ユーティリティを使用して行う」（P.2-3）を参照してください。
3. バックアップしたデータを Prime Collaboration サーバで復元します。

（注） Prime UOM と Prime USM が共存モードの場合は、最初に Prime USM を移行し、次に Prime UOM を移行する必要があります。

Prime UOM および Prime USM のバックアップ

Prime UOM および Prime USM をバックアップするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 次のプロセスを停止します。

- net stop OMHealthMonitor

（注）　これは、Prime USM のデータをバックアップするときには当てはまりません。

- net stop CRMDMgtd

ステップ 2　次のコマンドを実行し、パスワードを指定します。

NMSROOT`/bin/perl` *NMSROOT*`/bin/dbpasswd.pl dsn=qovr npwd=`*password*

NMSROOT はインストール ディレクトリです。

ステップ 3　次のコマンドを実行します。

NMSROOT`/bin/perl` *NMSROOT*`/bin/backup.pl` ***BackupDirectory***

ステップ 4　バックアップが完了したら、qovr.db がバックアップされているかどうかを次のディレクトリで調べます。

BackupDirectory/0/qovr/database

これが存在しない場合は、次の場所からファイルを手動でコピーします。

MSROOT/databases/qovr/qovr.db

qovr.log ファイルが存在する場合は、そのファイルを *BackupDirectory*/0/qovr/database にコピーします。

ステップ 5　creds ファイルを *NMSROOT*/qovr/config/ptm から *BackupFolder*/0/qovr にコピーします。

（注）　この手順は、Prime UOM および Prime USM の共存または混在インストールだけに適用されます。

ステップ 6　Prime Collaboration サーバにバックアップ フォルダをコピーします。

FTP/SFTP を使用する場合は、バイナリ モードでコピーすることを推奨します。

/opt フォルダにバックアップをコピーすることが重要です。このパーティションには、操作に必要な領域があるからです。

Prime UOM および Prime USM のバックアップを Prime Collaboration 上で復元する

Prime Collaboration インストールには、ユーザの要件に基づいてバックアップを復元できる移行スクリプトが含まれています。

Prime Collaboration サーバで、次の手順を実行します。

ステップ 1　ポート 26 を使用して SSH を介して root としてサーバにログインします。

ステップ 2　次のコマンドを実行してプロセスを停止します。

`/opt/emms/emsam/bin/cpcmcontrol.sh stop`

ステップ 3　次のコマンドを実行します。

`/opt/CSCOpx/bin/perl /opt/CSCOpx/bin/dbpasswd.pl dsn=qovr npwd=`*password*

ステップ 2 でのバックアップ時に入力したものと同じパスワードを指定します。

ステップ 4　移行スクリプトを実行します。

```
/opt/CSCOpx/bin/PC-MigrationTool.sh
```

次のオプションのいずれかを選択して入力します。

- 1：Cisco Prime Operations Manager/Service Monitor（混在）
- 2：Cisco Prime Operations Manager（スタンドアロン）
- 3：Cisco Prime Service Monitor（スタンドアロン）。

（注）　共存インストールを移行する場合は、最初にオプション 3 を選択してスクリプトを実行し、次にスクリプトをもう一度、オプション 2 を選択して実行します。両方のバックアップが復元されるまでは、プロセスを再起動しないでください。

移行中に表示されるメッセージに関する詳細については、移行スクリプトのメッセージの項を参照してください。

ステップ 5　バックアップの場所を指定します。

ステップ 6　処理が完了した後に、プロセスを再起動します。このようにするには、次のとおりに実行します。

```
/opt/emms/emsam/bin/cpcmcontrol.sh start
```

（注）　共存インストールを移行する場合は、Prime UOM の復元が完了するまでプロセスを再起動しないでください。

（注）　DDV をバックアップする必要がない場合は、移行後の作業に進んでかまいません。Prime UOM および Prime USM の移行後の作業を参照してください。

DDV 設定のバックアップと復元を Operations Manager ユーティリティを使用して行う

Prime UOM バックアップ ユーティリティは、Detailed Device View（DDV）でモニタまたは部分的にモニタされていた全タイプのデバイスの全コンポーネントの状態をバックアップします。一時停止状態のデバイスは、バックアップ ユーティリティの対象ではありません。

（注）　データ バックアップを可能にするため、このシステムのデーモン プロセスが実行中であることを確認してください。

バックアップ ユーティリティを実行するには、次の手順に従います。

ステップ 1　DOS プロンプトを開き、次のように入力します。

```
% PROGRA~1\CSCOpx\objects\vhm\utilities\inventoryBackup default
```

ここで *default* は、すべてのモニタまたは一部モニタされているデバイスの管理状態を inventoryBackup ファイルへ保存します。スクリプト実行中は、ユーザ入力は必要ありません。

注意　ネットワーク デバイスのバックアップはサポートされていません。CLI が機能している場合でも、ネットワークの接続性の問題のため、CLI を使用することは推奨しません。結果的に、サーバにマップされたネットワーク ドライブは、ユーザ インターフェイスでの選択には使用できません。

特定のファイル名やリスト固定のデバイス IP アドレスを入力する場合、次のように入力します。

```
% PROGRA~1\CSCOpx\objects\vhm\utilities\inventoryBackup
```

スクリプトによって、ファイル名およびデバイス情報を入力するように求められます。

ステップ 2　FTP を使用して Prime Collaboration サーバにファイルを転送します。

バイナリ モードでコピーすることを推奨します。

注意　Prime Collaboration への移行後に **inventoryRestore** スクリプトを実行できるのは、すべてのデバイスの再検出後に限られます。デバイス再検出の間、システムは高負荷状態となるため、ユーザ インターフェイスの反応が遅くなる場合があります。
この間、ダッシュボードはリフレッシュされない可能性があります。デバイス検出が完了するまで、ユーザ インターフェイスの処理を待機するよう推奨します。

ステップ 3　復元するには、次のとおりに実行します。

```
/opt/CSCOpx/objects/vhm/utilities/inventoryRestore.sh filename
```

Prime UOM および Prime USM の移行後の作業

移行スクリプトの実行が完了した後で、Prime Collaboration が移行後の作業に進める状態になるまで、30 分程度待機しなければならないことがあります。

使用可能な機能と移行後の作業については、Prime Collaboration を使用する前におよび移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance の項を参照してください。

Prime CM からの移行

Prime CM から移行するには、次の作業が必要です。

1. Prime Collaboration を仮想サーバにインストールします。『*Cisco Prime Collaboration Quick Start 9.0*』を参照してください。
2. Prime CM をバックアップします。Prime CM のバックアップを参照してください。
3. バックアップを Prime Collaboration サーバ上で復元します。Prime Collaboration での Prime CM のバックアップの復元を参照してください。

Prime CM のバックアップ

Prime CM をバックアップするには、リポジトリを作成してから、データをバックアップする必要があります。

FTP、SFTP、または TFTP サーバへのリポジトリの作成およびデータのバックアップを参照してください。

FTP、SFTP、または TFTP サーバへのリポジトリの作成

データのバックアップ前にリポジトリを作成する必要があります。デフォルトでは、バックアップサービスは *.tar.gpg ファイルを設定されたリポジトリに作成します。バックアップされたファイルは圧縮形式になっています。CD-ROM、ディスク、ftp、sftp、または tftp をリポジトリの場所として使用できます。

次の手順を実行します。

ステップ 1　インストール中に作成したアカウントを使用して Prime CM サーバにログインします。デフォルト設定は、*admin* です。

ステップ 2　次のコマンドを入力してディスクにリポジトリを作成します。

```
admin# config t
admin(config)# repository RepositoryName
admin(config-Repository)# url ftp://ftpserver/directory
admin(config-Repository)# user UserName password {plain | hash} Password
admin(config-Repository)# exit
admin(config)# exit
```

それぞれの説明は次のとおりです。

- *RepositoryName* とは、ファイルをバックアップする場所を指します。この名前には最大 30 文字までの英数字を指定できます。
- *ftp://ftpserver/directory* とは、FTP サーバおよびサーバ上のディレクトリで、ここにファイルを転送します。FTP の代わりに SFTP または TFTP を使用することもできます。
- *UserName* および {**plain** | **hash**} *Password* とは、FTP、SFTP、または TFTP のユーザ名とパスワードです。**hash** は暗号化されたパスワードを指定し、**plain** は暗号化されていない、プレーンテキスト パスワードを指します。

たとえば、次のように入力します。

```
admin# config t
admin(config)# repository tmp
admin(config-Repository)# url ftp://ftp.cisco.com/incoming
admin(config-Repository)# user john password plain john!23
admin(config-Repository)# exit
admin(config)# exit
```

データのバックアップ

ステップ 1　リポジトリを作成後、Prime Collaboration サーバに *admin* としてログインし、次のコマンドを実行してデータをバックアップします。

admin# **backup** *Backupfilename* **repository** *RepositoryName* **application emsam**

それぞれの説明は次のとおりです。

- *Backupfilename*：バックアップ ファイルの名前。この名前には最大 100 文字までの英数字を指定できます。
- *RepositoryName*：ファイルをバックアップする場所。この名前には最大 30 文字までの英数字を指定できます。

バックアップが完了すると、次のメッセージが表示されます。

% Creating backup with timestamped filename: *Backupfilename-Timestamp*.tar.gpg

バックアップ ファイルは、末尾にタイムスタンプ（*YYMMDD-HHMM*）とファイル拡張子 .tar.gpg が付加されてリポジトリに保存されます。次に例を示します。

admin# **backup cmbackup repository tmp application emsam**

バックアップが完了すると、次のメッセージが表示されます。

% Creating backup with timestamped filename: cmbackup-110218-0954.tar.gpg

ステップ 2　バックアップ ファイルを Prime Collaboration サーバにコピーします。

FTP/SFTP を使用する場合は、バイナリ モードでコピーすることを推奨します。

/opt フォルダにバックアップをコピーすることが重要です。このパーティションには、操作に必要な領域があるからです。

Prime Collaboration での Prime CM のバックアップの復元

Prime Collaboration インストールには、ユーザの要件に基づいてバックアップを復元できる移行スクリプトが含まれています。

Prime Collaboration サーバで、次の手順を実行します。

ステップ 1　移行ツールを起動するために次のコマンドを実行します。

opt/CSCOpx/bin/PC-MigrationTool.sh

ステップ 2　**4** と入力します。これは Prime CM を移行するオプションです。

ステップ 3　バックアップ ファイルの場所を入力して（例：/opt/*filename*.tar.gpg）、Enter を押します。

移行が完了した後で、Prime Collaboration の UI がアクセス可能になるのに 20 分かかる場合があります

Prime CM の移行後の作業

移行スクリプトの実行が完了した後で、Prime Collaboration が移行後の作業に進める状態になるまで、30 分程度待機しなければならないことがあります。

使用可能な機能と移行後の作業については、Prime Collaboration Assurance を使用する前におよび移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance の項を参照してください。

Prime UPM からの移行

Prime UPM から移行するには、次の手順を実行します。

1. インストールした Prime Collaboration にあるバックアップ ツールを使用して Prime UPM をバックアップします。Prime UPM のバックアップを参照してください。
2. データを Prime Collaboration サーバで復元します。Prime Collaboration での Prime UPM バックアップの復元を参照してください。

Prime UPM のバックアップ

（注）Prime UPM データベースのバックアップに進む前に、システム内の全ドメインに対して、createSelfCareccounts ルールをイネーブルにして DefaultCUPMPassword ルールを設定することを推奨します。これは、すべてのユーザが移行後に確実にセルフケアの機能を利用できるようにするためです。また、IOS 事前構築テンプレートをシステム内で作成または使用していた場合は、移行前にバックアップすることを推奨します。このテンプレートは、自動的にはバックアップされないからです。サンプル ファイルは cisco.com/go/cupm で入手できます。

ステップ 1　Prime Collaboration サーバの /opt/cupm ディレクトリから CUPMMigrationBackupTool.zip をダウンロードします。

ステップ 2　Prime UPM がインストールされているディレクトリに zip ファイルを展開します。

展開すると、次の 2 つのファイルが作成されます。

- UPMMigrationBackup.bat
- UPMMigrationBackup.class

ステップ 3　システムにすでに Java がインストールされていることと、そのパス変数が設定されていることを確認します。

次のコマンドを実行します：`java`

簡易インストールの場合

データベース サーバでユーティリティを実行する前に、jboss および nice サービス サーバを停止する必要があります。

a. コマンド プロンプトを開き、ユーティリティを展開したディレクトリに移動します。

b. 次のコマンドを実行します：`UPMMigrationBackup.bat` *<Backup directory>* *<postgres password>*

- *Backup directory*：ユーティリティでバックアップしたファイルを置くディレクトリ。
- *postgres password*：Prime UPM のインストール時に指定した postgres 管理者パスワード。

バックアップが完了すると、バックアップ ファイル `CUPMMigrationBackup.zip` が、指定したディレクトリに出力されます。この zip ファイルは、データベース ファイル、ライセンス ファイル、およびプロパティ ファイルを保持します。

拡張インストールの場合

CLI スクリプトは、アプリケーション サーバとデータベース サーバの両方で実行する必要があります。

データベース サーバでユーティリティを実行する前に、アプリケーション サーバのサービスを停止する必要があります。

a. コマンド プロンプトを開き、ユーティリティを展開したディレクトリに移動します。

b. 次のコマンドを実行します：**`UPMMigrationBackup.bat`** *<Backup directory>* *<postgres password>*

バックアップが完了すると、バックアップ ファイル `CUPMMigrationBackup.zip` が、指定したディレクトリに出力されます。

Prime Collaboration での Prime UPM バックアップの復元

Prime Collaboration インストールには、ユーザの要件に基づいてバックアップを復元できる移行スクリプトが含まれています。

（注）Prime UPM サーバから取得したバックアップを復元する前に、Prime Collaboration Provisioning データベースのバックアップを実行することを推奨します。詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide 9.0*』を参照してください。データベースの問題がある場合は、最初に使用した IP アドレスおよびクレデンシャルを取得して、データベースを再展開できます。

root としてログインする必要があります。

シングル サーバ展開の場合

ステップ 1　Prime Collaboration サーバに CUPMMigrationBackup.zip をコピーします。

ステップ 2　/opt/cupm に移動して次のコマンドを実行します。

```
./PC-MigrationTool.sh
```

ツールは、次のプロセスを停止します。

- cupm NICEService
- cupm JBossService
- Apache 2

何度か試行しても停止できないサービスがある場合は、サービスの再起動を求めるメッセージが表示されます。たとえば、次のように表示されます。

```
JBoss process did not stopped completely, Restart the services and try again
```

この場合は、サービスを手動で停止してから、移行ツールを再度実行する必要があります。サービスの停止に関する詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide 9.0*』を参照してください。

ステップ 3　CUPMMigrationBackup.zip が配置されているバックアップ フォルダのパスを指定します。

たとえば、CUPMMigrationBackup.zip が /opt フォルダにある場合は、プロンプトで /opt と入力します。

ステップ 4　Enter を押します。

次のメッセージが表示されます。

```
Warning:-SelfCareMigrationUtility will look at the CreateSelfCareAccounts rule and
DefaultCUPMPassword rule for each domain and enable self-care for all the users in the
domain only if CreateSelfCareAccounts rule is enabled and a default password is set for
the rule DefaultCUPMPassword.

Post migration, you can set the required rules and rerun the utility for those domains
which are skipped during the migration.

See the SelfCareUserMigration.log file at /opt/cupm/sep/logs, for the details
```

ステップ 5　Enter を押します。

移行が完了するとメッセージが表示されます。

失敗した場合やデバッグを行う場合は、/opt/cupm/sep/logs/ にある次のファイルを確認してください。

- SelfCareUserMigration.log
- UPMMigrationRestore.log

分散インストールの場合

データベース サーバでの作業：

ステップ 1　Prime UPM データベース サーバから取得したバックアップ ファイル CUPMMigrationBackup.zip をデータベース サーバにコピーします。

ステップ 2　アプリケーション サーバで実行されているアプリケーション サービスを停止します。

（注）　指定された試行回数または時間に達してもアプリケーション プロセスが停止していない場合は、サービスの再起動を求めるメッセージが表示されます。この場合は、サービスを手動で停止する必要があります。

ステップ 3　データベース サーバで、/opt/cupm に移動して次のコマンドを実行します。

```
./PC-MigrationTool.sh
```

ステップ 4　CUPMMigrationBackup.zip が配置されているバックアップ フォルダのパスを指定します。

たとえば、CUPMMigrationBackup.zip が /opt フォルダにある場合は、プロンプトで /opt と入力します。

移行が正常に完了するとメッセージが表示されます。

アプリケーション サーバでの作業：

ステップ 1　Prime UPM アプリケーション サーバから取得した CUPMMigrationBackup.zip をアプリケーション サーバにコピーします。

ステップ 2　/opt/cupm に移動して次のコマンドを実行します。

```
./PC-MigrationTool.sh
```

ステップ 3　CUPMMigrationBackup.zip が配置されているバックアップ フォルダを指定します。

たとえば、CUPMMigrationBackup.zip が /opt フォルダにある場合は、プロンプトで /opt と入力します。

次のメッセージが表示されます。

```
Warning:-SelfCareMigrationUtility will look at the CreateSelfCareAccounts rule and
DefaultCUPMPassword rule for each domain and enable self-care for all the users in the
domain only if CreateSelfCareAccounts rule is enabled and a default password is set for
the rule DefaultCUPMPassword.

Post migration, you can set the required rules and rerun the utility for those domains
which are skipped during the migration.

See the SelfCareUserMigration.log file at /opt/cupm/sep/logs, for the details.
```

ステップ 4　Enter を押してセルフケア ユーザ移行に進みます。ユーティリティに関する詳細については、セルフケア ユーザ移行スクリプトの実行を参照してください。

createSelfCareccounts ルールが設定されていないドメインがメッセージに表示されます。

移行プロセスの完了時にメッセージが表示されます。

失敗した場合やデバッグを行う場合は、/opt/cupm/sep/logs/ にある次のログ ファイルを確認してください。

- SelfCareUserMigration.log
- UPMMigrationRestore.log

セルフケア ユーザ移行スクリプトの実行

Prime Collaboration では、セルフケア ポータルを使用してユーザ設定を更新できます。

データベース バックアップの取得に進む前に、Prime UPM サーバの全ドメインに対して createSelfCareccounts ルールをイネーブルにして DefaultCUPMPassword ルールを設定することを推奨します。これは、すべてのユーザが移行後に確実にセルフケアの機能を利用できるようにするためです。

SelfCareMigrationUtility スクリプトは、移行中に起動することも、移行後に CLI から起動することもできます。このツールは CreateSelfCareAccounts ルールおよび DefaultCUPMPassword ルールが設定されているドメインのすべてのユーザを処理します。

移行中にスキップされたドメインについては、移行後に、必要なルールを設定してユーティリティを再実行できます。

このツールは、/opt/cupm/sep/ipt/bin から CLI を使用して実行できます。これは単一のドメインに対して実行することも、グローバルに（すべてのドメインに対して）実行することもできます。

スクリプトを実行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　/opt/cupm/sep/ipt/bin に移動します。

ステップ 2　次のコマンドを実行します。

```
./SelfCareMigrationUtility.sh ALL ENABLE
```

- ALL：すべてのドメインを示します。
- ENABLE：指定されたドメイン内のすべてのユーザに対してセルフケアをイネーブルにします。

このスクリプトはドメイン レベルでも実行できます。このようにするには、次のとおりに実行します。

```
./SelfCareMigrationUtility.sh <DOMAIN NAME> [ENABLE | DISABLE]
```

セルフケア オプションをディセーブルにするには、DISABLE オプションを使用できます。このようにするには、次のとおりに実行します。

```
./SelfCareMigraionUtility.sh ALL DISABLE
```

中規模展開モデルを使用しているときに、電話機 10,000 台という上限に近づいている場合は、大規模展開モデルを使用して Prime Collaboration に移行することを推奨します。

シングル サーバ インストールである中規模展開モデルから、分散設定である大規模展開モデルに移行するには、次の手順を実行します。

1. Prime UPM シングル サーバ インストールのバックアップを実行します。Prime UPM のバックアップを参照してください。
2. Prime Collaboration のアプリケーション サーバとデータベース サーバにバックアップ ファイルをコピーします。
3. アプリケーション サーバとデータベース サーバの両方で復元ユーティリティを実行します。Prime Collaboration での Prime UPM バックアップの復元を参照してください。
4. 両方のサーバのサービスを再起動します。

Prime Collaboration Provisioning の移行後の作業

これらの機能の詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide 9.0*』を参照してください。使用可能な機能と移行後の作業については、移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance の項および Prime Collaboration を使用する前にの項を参照してください。

移行スクリプトのメッセージ

表 2-1 に、スクリプトで表示されるメッセージと、そのメッセージに対する注意事項を示します。

表 2-1　移行のメッセージ

メッセージ	コメント
The license details in the server are different from the backup data. After restoring, please check the license available in the server.	
Your current license count is lower than your earlier license count. If you restore the data now, devices that exceed the current licence count will be moved to Suspended state.	
Cannot evaluate the hostname, hence the certificate may be from this host or another host.	

表 2-1　移行のメッセージ （続き）

メッセージ	コメント
You have selected to migrate Cisco Prime Operations Manager (Standalone) If you are having Cisco Prime Operations Manager (Standalone) and Cisco Prime Service Monitor (Standalone) in different servers in co-existent Model You need to first migrate Cisco Prime Service Monitor (Standalone) followed by Cisco Prime Operations Manager (Standalone) Are you sure you want to continue to migrate Cisco Prime Operations Manager (Standalone)	Prime UOM および Prime USM の共存インストールを移行するときは、必ず最初にオプション 3 を選択して Prime USM を移行してから、オプション 2 を選択して Prime UOM を移行してください。 プロセスの再起動は、Prime UOM の復元が完了した後に行う必要があります。
The backup archive is from a different OS. Your current Platform is: Soft Appliance. You are attempting to perform a Cross Platform Restore.	
The list of applications installed on this CiscoWorks server does not match the list of applications in the backup archive. If you restore data from this backup archive, it may cause problems in the CiscoWorks applications. Do you want to continue the restore operation?	このメッセージは無視してかまいません。
Licenses can also be restored, do you want to restore Licenses?	
To make sure all the existing devices go to the managed state, you need to perform rediscovery after restore.	
Starting CM and OM Cisco Prime Collaboration Assurance start issued... Please run show application status cpcm to check status of start operation.	

CHAPTER 3

Prime Collaboration を使用する前に

Prime Collaboration への移行が完了した後で、すべての Prime Collaboration 機能を使用できるようにするには、特定の作業を実行する必要があります。Prime UOM、Prime USM、Prime UPM、または Prime CM から移行した後で実行する必要のある作業に関する情報について、Prime Collaboration Assurance を使用する前におよびPrime Collaboration Provisioning を使用する前にの項を確認してください。

Prime Collaboration へのログイン

クライアント ブラウザを使用して、Prime Collaboration を起動できます。

Prime Collaboration にログインするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 マシンからブラウザ セッションを開きます。サポートされているブラウザに関する情報については、『*Cisco Prime Collaboration Quick Start 9.0*』を参照してください。

統合モードでは、Prime Collaboration Assurance サーバの IP アドレスを指定します。スタンドアロンモードでは、起動する UI に基づいて、Prime Collaboration Assurance または Provisioning の IP アドレスを指定します。

ステップ 2 次の*いずれか*を入力します。

- **http:**//*IP Address*
- **https:**//*IP Address*

（注） Prime Collaboration Assurance または Provisioning サーバの IP アドレスとホスト名のどちらも使用できます。ホスト名が DNS で設定済みの場合は、ホスト名を使用することを推奨します。

使用しているブラウザに応じて、次のいずれかが表示されます。

- Windows Internet Explorer の場合は、[Certificate Error: Navigation Blocked] ウィンドウが表示されます。
- Mozilla Firefox の場合は、[Untrusted Connection] ウィンドウが表示されます。

これらのウィンドウが表示されるのは、Prime Collaboration が自己署名証明書を使用しているためです。

ステップ 3 SSL 証明書の警告を削除します。

Prime Collaboration のログイン ページが表示されます。

ステップ 4　Prime Collaboration のログイン ページで、*globaladmin* としてログインする必要があります。設定中に指定したクレデンシャルと同じクレデンシャルを使用します。

Prime Collaboration ランディング ページとともに、使用開始のポップアップが表示されます。ここでは、[System Setup] や [Manage Network] の下のリンクをクリックして Prime Collaboration サーバの初期設定を行うことができます。

（注）　インストール後に、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションと Prime Collaboration Assurance との統合を、Prime Collaboration Assurance UI を使用して行うことができます。Prime Collaboration Provisioning と Prime Collaboration Assurance を統合する方法の詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』の「*Cisco Prime 360 Integration*」の項を参照してください。

Prime Collaboration Assurance を使用する前に

Prime Collaboration Assurance に移行した後で、機能が期待どおりに動作することを確認するために、次の表に示す作業を行う必要がある場合があります。

表 3-1　Prime Collaboration Assurance を使用する前に

	作業と説明	Prime Collaboration Assurance スタンドアロン サーバでのナビゲーション
1.	[Job Management] ページに移動します。実行状態のジョブがないことを確認します。 自動検出が完了しているかどうかを確認します。	自動検出が完了しているかどうかを確認するには、[Administration] > [Job Management] ページに移動し、実行状態のジョブがないことを確認します。
2.	ライセンス ファイルを追加します。	[Administration] > [License Management] 詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』を参照してください。「ライセンスおよび移行」も参照してください。
3.	すべてのデバイスの再検出をトリガーします。	[Operate] > [Device Work Center] > [Discover Devices]
4.	すべてのデバイスが [Managed] 状態にあるかどうかを確認します デバイス管理機能の変更を参照してください。	[Operate] > [Device Work Center] デバイスの管理の詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Device Management Guide 9.0*』を参照してください。
5.	Cisco 1040 Sensor を再設定します	詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide 9.0*』を参照してください。
6.	移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance で機能の変更の詳細を確認します。	

デバイス検出が完了すると、Prime Collaboration の機能を使用できるようになります。障害管理とネットワーク モニタリングができるようにするための機能については、『*Cisco Prime Collaboration Fault Management Guide 9.0*』および『*Cisco Prime Collaboration Network Monitoring, Reporting, and Diagnostics Guide 9.0*』を参照してください。

移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance

Prime UOM、Prime USM、Prime Collaboration Manager の各アプリケーションの機能のほとんどは Prime Collaboration に移行されているので、追加設定を行わなくてもその機能の使用を開始できます。

表 3-2 は、Prime Collaboration で設定を再度実行する必要がある機能の詳細です。また、サポートされていない機能も示します。

表 3-2　移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance

機能	移行時にサポートされる	Prime Collaboration での作業
Prime UOM/Prime USM の機能		
クラスタ デバイス検出	Prime UOM でデフォルトが変更されている場合に、設定は移行時に維持されません。	設定する場所： [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Cluster Data Discovery Settings]
デバイス再検出のスケジュール	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center] > [Discover Devices]
電話 XML 設定	Prime UOM でデフォルトが変更されている場合に、設定は移行時に維持されません	設定する場所： [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [IP Phone XML Inventory Collection Settings]
電話インベントリ収集の設定	Prime UOM でデフォルトが変更されている場合に、設定は移行時に維持されません	設定する場所： [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [IP Phone Inventory Collection Settings]

表 3-2　移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance （続き）

機能	移行時にサポートされる	Prime Collaboration での作業
レポートのエクスポートの設定：	No	設定する場所： • [Report] > [Interactive Reports] > [Activity Reports] > [Export Audio Phones] • [Report] > [Interactive Reports] > [Activity Reports] > [Export Video Phones] • [Report] > [Static Report] > [Event History] • [Interactive Reports] > [Call Quality Event History Reports] > [Export] • [Interactive Reports] > [Call Quality Reports] > [Export Most Impacted Endpoints]
イベントのカスタマイズ	No	設定する場所： [Alarm & Event Configuration] > [Event Customization] イベント抑止と重大度をカスタマイズできます。イベント名はカスタマイズできません。
Event History レポート		使用できる場所： [Report] > [Static Reports] [Reports] ペインの [Event History] を選択します。
Syslog カスタマイズのサポートの設定	No	[Administration] > [Event Customization] で再作成できます。
ユーザ定義グループ	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center]
RBAC ユーザ	一部	カスタム ロールは移行されません。詳細については、RBAC 機能の変更を参照してください。
NBI プリファレンスの設定	No	サポートされていません。
PTM の設定	Yes	該当なし
保存されたレポート	No	[24-Hour IP Phone Status Reports]、[Event History Report]、[24-Hour Video Phone Status Reports]、[Service Quality History] が保存されている可能性があります。これらは移行されません。保存されたレポートを手動でコピーする必要があります。

表 3-2　移行時の機能サポート：Prime Collaboration Assurance （続き）

機能	移行時にサポートされる	Prime Collaboration での作業
SMTP サーバ	No	設定する場所： [System Setup] > [Assurance Setup] > [General Settings]
Prime Collaboration Manager の機能		
ユーザ定義グループ	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center] > [Create Group]
インベントリのスケジュール	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center]
TMS および CTS MAN のクラスタ設定	No	設定する場所： [Operate] > [Device Work Center]
スタティック レポート	No	設定する場所： [Reports] > [Static Reports]
ユーザ プリファレンスの設定	No	機能は使用できません。
レポート	No	以前のインストールから手動でコピーします。

デバイス管理機能の変更

デバイス クレデンシャルは、Prime Collaboration ではクレデンシャル プロファイルを使用して管理されます。クレデンシャル プロファイルを作成および更新する方法については、『*Cisco Prime Collaboration Device Management Guide 9.0*』の「*Managing Device Credentials*」の項を参照してください。

デバイスが Prime Collaboration で [Managed] 状態となるには、すべての必須クレデンシャルが Prime Collaboration データベースに存在する必要があります。Prime UOM では、デバイスの SNMP クレデンシャルだけがデータベースにある場合は [Partially Monitored] 状態になります。ただし Prime Collaboration では、SNMP クレデンシャルが使用可能であっても、デバイスは [Inaccessible] 状態になります。クレデンシャル プロファイルのすべての必須クレデンシャルを追加し、Prime Collaboration でデバイスを再検出する必要があります。

Prime UOM を使用して管理していたデバイスのクレデンシャルを編集するには、[Manage Credentials] ページ（[Operate] > [Device Work Center] > [Credential Profile]）でクレデンシャル プロファイルを追加してから、再検出を実行する必要があります。

新規デバイスを追加するには、[Manage Credentials] ページでクレデンシャル プロファイルを追加してから、デバイスを検出する必要があります。

RBAC 機能の変更

Prime UOM で作成されたユーザは移行され、Prime UOM で付与されたパスワードを引き続き使用できます。ユーザに関連付けられたロールとデバイス レベル アクセスは移行されません。

Prime Collaboration のシステム定義ロールおよび対応する特権の詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』を参照してください。

Prime UOM で作成されたユーザに、移行後に Prime Collaboration で割り当てられるロールの詳細については、表 3-3 を参照してください。

表 3-3　ユーザおよびロール

Prime UOM のユーザ	Prime Collaboration でのロール
guest	Help Desk
完全な権限を持つユーザ	5 つすべてのロール
カスタム ロールを持つユーザ	Help Desk
デバイス レベルの権限を持つが、ロールは割り当てられていないユーザ	Help Desk
ロールが割り当てられていないユーザ	Help Desk
ユーザ名として globaladmin を持つユーザ	移行されません。

Prime Collaboration Provisioning を使用する前に

Prime Collaboration Provisioning に移行した後で、機能が想定どおりに動作することを確認するために、次の表に示す作業を行う必要がある場合があります。

表 3-4　Prime Collaboration Provisioning を使用する前に

	作業と説明	Prime Collaboration Provisioning スタンドアロン サーバでのナビゲーション
1.	シングル サーバ展開では、サービスを再起動します。 分散サーバ展開の場合： • アプリケーション サーバのサービスを停止します • データベース サーバのデータベース サービスを再起動します • アプリケーション サーバのアプリケーション サービスを再起動します。	『*Cisco Prime Collaboration Administration Guide 9.0*』を参照してください。
2.	次の同期プロセスを実行することを推奨します。 • インフラストラクチャの同期化 • 加入者の同期化	『*Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide 9.0*』を参照してください。
3.	新しいライセンス ファイルを追加します。 製品を評価中の場合、この手順は任意です。 Prime UPM からコピーされたライセンス ファイルは、/opt/cupm/license に配置されます。Prime Collaboration 9.0 アップグレード ライセンス ファイルが /opt/cupm/license/ にコピーされている必要があります。	[Administration] > [License Management] プロビジョニングのライセンス ディレクトリにライセンスが配置されるように、必ずライセンス タイプとして [Provisioning] を選択してください。ライセンス ディレクトリのすべてのライセンスの MAC アドレスが一致する必要があります。

表 3-4　Prime Collaboration Provisioning を使用する前に （続き）

	作業と説明	Prime Collaboration Provisioning スタンドアロン サーバでのナビゲーション
4.	個別のユーザ ID を使用する 1 人以上の管理者を作成します。システムが追跡目的で個々の管理者を識別できるようになります。 （注）　これは、パスワードを忘れた場合に globaladmin がロックアウトされることの対策としても推奨されます。globaladmin の特権を持つバックアップの管理者を設定することを推奨します。	
5.	管理者を追加します	[Administration] > [Manage User]
6.	コールとメッセージのプロセッサを追加および設定します。	[Design] > [Set Up Devices] > [Devices Setup]
7.	ドメイン展開を設定します • ドメインを作成し、コールとメッセージのプロセッサを割り当てる • サービス エリアを作成する • ルールを設定する	[Design] > [Set Up Deployment]
8.	Cisco UCM を設定するためのテンプレートを作成して展開します。	[Deploy] > [Infrastructure Configuration]
9.	ユーザ/加入者をドメイン グループに割り当てます。	[Deploy] > [Subscriber Management] > [Add Subscribers]
10.	オーダー ワーク フローを設定します	[Deploy] > [Order Management]
11.	機能の変更に関する情報については、移行時の機能サポート：Prime Collaboration Provisioning の項を参照してください。	

移行時の機能サポート：Prime Collaboration Provisioning

Prime UPM で使用されていた機能のほとんどは Prime Collaboration に移行されているので、追加設定を行わなくてもその機能の使用を開始できます。

表 3-5 は、Prime Collaboration で設定を再度実行する必要がある機能の詳細です。また、サポートされていない機能も示します。

表 3-5　移行時の機能サポート：Prime Collaboration Provisioning

機能	移行時にサポートされる	移行後の作業
ログ ファイル	No	Provisioning のログ ファイルは次の場所にあります。 /opt/cupm/sep/logs
IOS 設定テンプレート	No	テンプレートに追加されたカスタマイズは、移行後は使用できません。 サンプル テンプレートは次の場所にあります。 /opt/cupm/sep/ipt/ios-pre-built
レポート	No	以前のインストールから手動でコピーします。

移行後に、[Domain Configuration] > [View Domain] > [Export Phones Without Associated Users] ページの [View Export Data File] リンクをクリックすると、「Page Not Found」エラーとなります。データを表示するには、コール プロセッサを選択し、[Export] をクリックしてレポートを再びエクスポートしてから、[View Export Data File] リンクをクリックする必要があります。

Prime Collaboration では、[Administration] メニューで定義できる LDAP/AD ソースは 1 つだけです。非フェデレーション環境のためにこれよりも多く必要な場合は、Prime Collaboration Provisioning サーバで作成して異なるドメインに割り当てることができます。

APPENDIX A

ナビゲーション リファレンス

Prime UOM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング

表 A-1 は、Prime UOM の主要機能を起動するためのナビゲーション パスと、その機能の Prime Collaboration でのナビゲーションのリファレンスです。

表 A-1　Prime UOM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング

作業	Prime UOM のナビゲーション	Prime Collaboration のナビゲーション
音声ダッシュボードの表示	[Monitor] > [UC Opsview]	ホーム
ダッシュボードのカスタマイズ		
サービス品質アラートのモニタリング	[Administration] > [System Settings] > [Miscellaneous]	[Operate] > [Alarms & Events]
イベント履歴の表示	[Monitor] > [Fault Monitor] [Events] タブをクリックし、イベント名をクリックします。イベント履歴リンクを持つイベント詳細ページが表示されます。	
イベントの表示	[Monitor] > [Fault Monitor]	[Operate] > [Alarms & Events]

表 A-1　Prime UOM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング （続き）

作業	Prime UOM のナビゲーション	Prime Collaboration のナビゲーション
インベントリの表示	[Administration] > [Device Management] > [Inventory Collection]	[Operate] > [Device Work Center]
クレデンシャルの管理	[Administration] > [Device Management] > [Device Configuration]	
デバイスの検出	[Administration] > [Device Management] > [Auto Discovery Configuration]	
インベントリの更新	[Administration] > [Device Management] > [Inventory Collection]	
検出ジョブの表示	[Administration] > [Server Administration (Common Services)] > [Administration]	
イベントのカスタマイズ	[Administration] > [System Settings] > [Event Customization]	
デバイス管理の一時停止	[Administration] > [Device Management] > [Device Configuration]	
デバイス管理の再開	[Administration] > [Device Management] > [Device Configuration]	
グループへの追加	[Administration] > [Device Management] > [Device Configuration]	
グループからの削除	[Administration] > [Device Management] > [Device Configuration]	
レポートの生成	[Reports] > [Audio IP Phones] [Reports] > [Video IP Phones]	[Reports] > [Static Reports] [Reports] > [Interactive Reports]
ジョブの管理	[Administration] > [Server Administration (Common Services)] > [Administration]	[Administration] > [Job Management]
ジョブのスケジュール設定		
ジョブのキャンセル		

表 A-1　Prime UOM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング （続き）

作業	Prime UOM のナビゲーション	Prime Collaboration のナビゲーション
ユーザの表示	[Administration] > [Server Administration (Common Services)] > [Security]	[Administration] > [User Management]
ユーザの追加		
ユーザの編集		
ユーザの削除		
パスワードのリセット		
パスワードの変更（ログアウト リンクの横のグローバル ツールバーから）		
ライセンス詳細の表示	[Administration] > [Server Administration (Common Services)] > [Administration]	[Administration] > [License Management]
ライセンスの追加		
ライセンスの削除		
デバイスのモニタリングの設定	[Administration] > [Polling and Threshold] > [Threshold Settings]	[Administration] > [System Setup] > [Polling & Threshold] > [TelePresence Monitoring Settings]
イベントのモニタリングと重大度のカスタマイズ。また、しきい値を定義して、自動的にトラブルシューティングを行う。	[Administration] > [System Settings] > [Event Customization] [Administration] > [Polling and Threshold] > [Threshold Settings]	[Operate] > [Alarms & Settings]
システム パラメータの設定	管理機能	• [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Cisco Prime 360 Integration] • [Administration] > [System Settings] > [General Settings]
デバッグするログレベルの設定	[Administration] > [System Settings] > [Miscellaneous]	[Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Log Settings]

Prime CM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング

表 A-2 は、Prime CM の主要機能を起動するためのナビゲーション パスと、その機能の Prime Collaboration でのナビゲーションのリファレンスです。

表 A-2　Prime CM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング

作業	PrimeCM のナビゲーション	Prime Collaboration のナビゲーション
ビデオ コラボレーション ダッシュボードの表示	ホーム	ホーム
ダッシュボードのカスタマイズ		
[Alarm Browser] の起動		
[Alarm Summary] の起動		
セッションのモニタリング	[Monitoring] > [Sessions Monitoring]	[Operate] > [Diagnose] > [Session Diagnostics]
セッションのインポート		
[360° Session View] の起動		
[360° Session View] から：監視リストへの追加		
[360° Session View] から：アラームの表示		
[360° Session View] から：エンドポイント モニタリング		
[360° Session View] から：セッションのトラブルシューティングまたはトラブルシューティング データのエクスポート		
トポロジ ビュー（エンドポイント）から：監視リストへの追加または監視リストからの削除		
トポロジ ビュー（エンドポイント）から：アラームの表示		
トポロジ ビュー（エンドポイント）から：エンドポイントのモニタリング		
トポロジ ビュー（ネットワーク接続）から：ネットワーク リンクのトラブルシューティング		
エンドポイントのモニタリング	[Monitoring] > [Endpoint Monitoring]	[Operate] > [Diagnose] > [Endpoint Diagnostics]
クイック ビューの起動		
クイック ビューから：監視リストへの追加または監視リストからの削除		
クイック ビューから：アラームの表示		
クイック ビューから：セッションのモニタリング		
トラブルシューティング セッションの開始	[Monitoring] > [Proactive Troubleshooting]	[Operate] > [Diagnose] > [IP-SLA Diagnostics]
[Media Path Analysis] の開始	[Monitoring] > [Media Path Analysis]	[Operate] > [Diagnose] > [Media Path Analysis]
アラームの表示	[Monitoring] > [Alarms]	[Operate] > [Alarms & Events]
ステータスの変更		
アラームの割り当て		
注釈の追加		
クイック ビューの起動		
クイック ビューから：セッションのモニタリング		
クイック ビューから：イベント履歴		

表 A-2　Prime CM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング （続き）

作業	PrimeCM のナビゲーション	Prime Collaboration のナビゲーション
イベントの表示	[Monitoring] > [Events]	[Operate] > [Alarms & Events]
インベントリの表示	[Inventory] > [Device Inventory]	[Operate] > [Device Work Center]
クレデンシャルの管理		
デバイスの検出		
インベントリの更新		
インベントリのエクスポート		
検出ジョブの表示		
可視性の編集（[Edit] ボタン）		
イベントのカスタマイズ		
デバイス管理の一時停止		
デバイス管理の再開		
グループへの追加		
グループからの削除		
レポートの生成	[Reports] > • All Sessions Summary Report • Endpoint Utilization Report • Conferencing Device Utilization Report • No Show Endpoints Summary Report • Session Detail Report • Static Reports	[Report] > [Interactive Reports]
ジョブの管理	[Administration] > [Job Management]	[Administration] > [Job Management]
ジョブのスケジュール設定		
ジョブのキャンセル		
ユーザの表示	[Administration] > [User Management]	[Administration] > [User Management]
ユーザの追加		
ユーザの編集		
ユーザの削除		
パスワードのリセット		
パスワードの変更（ログアウト リンクの横のグローバル ツールバーから）		
ライセンス詳細の表示	[Administration] > [License Management]	[Administration] > [License Management]
ライセンスの追加		
ライセンスの削除		

表 A-2　Prime CM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング （続き）

作業	PrimeCM のナビゲーション	Prime Collaboration のナビゲーション
デバイスのモニタリングの設定	[Administration] > [Device Monitoring Configuration]	[Administration] > [System Setup] > [Polling & Threshold] > [TelePresence Monitoring Settings]
イベントのモニタリングと重大度のカスタマイズ。また、しきい値を定義して、自動的にトラブルシューティングを行う。	[Administration] > [Event Settings]	[Operate] > [Alarms & Settings]
システム パラメータの設定	[Administration] > [System Configuration]	• [Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Cisco Prime 360 Integration] • [Administration] > [System Settings] > [General Settings]
デバッグするログレベルの設定	[Administration] > [Log Configuration]	[Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Log Settings]
ユーザ設定	[Administration] > [User Preference Configuration]	[Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [General Settings]

Prime UPM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング

表 A-3 は、Prime UPM の主要機能を起動するためのナビゲーション パスと、その機能の Prime Collaboration でのナビゲーションのリファレンスです。

表 A-3　Prime UPM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング

作業	UPM のナビゲーション	PC のナビゲーション
デバイスの管理	[Infrastructure] > [Set Up Devices] > [Devices]	[Design] > [Set Up Devices] > [Devices Setup]
ドメインの管理	[Infrastructure] > [Set Up Deployment] > [Domains]	[Design] > [Set Up Deployment] > [Domains]
サービス エリアの管理	[Infrastructure] > [Set Up Deployment] > [Service Areas]	[Design] > [Set Up Deployment] > [Service Areas]
Quick Site Builder	[Infrastructure] > [Set Up Deployment] > [Quick Site Builder]	[Design] > [Set Up Deployment] > [Quick Site Builder]
テンプレートの作成（インフラストラクチャ設定）	[Infrastructure] > [Provision Network] > [Configuration Templates]	[Design] > [Provisioning Template]
インフラストラクチャ インスタンスの定義	[Infrastructure] > [Provision Network] > [Infrastructure Configuration]	[Deploy] > [Infrastructure Configuration]
バッチ プロビジョニングの実行	[Infrastructure] > [Provision Network] > [Batch Provisioning]	[Deploy] > [Batch Provisioning]

表 A-3　Prime UPM から Prime Collaboration へのナビゲーション マッピング （続き）

作業	UPM のナビゲーション	PC のナビゲーション
インベントリの管理	[Advanced Setup] > [Inventory Management] > [Phone]	[Deploy] > [Provisioning Inventory] > [Manage Phones]
加入者の管理	[Provisioning] > [Manage Subscribers] > [Add Subscribers]	[Deploy] > [Subscriber Management] > [Add Subscribers]
管理者の管理	[System Administration] > [Users and Permissions] > [User Management]	スタンドアロン：[Administration] > [Users and Device Access Management] > [User Management] 統合 : [Administration] > [User Management]
加入者レコードへのアクセス	[Provisioning] > [Manage Subscribers] > [Search Subscribers]	[Deploy] > [Subscriber Management] > [Search Subscribers] または、[Provisioning] にフォーカスが設定された状態で、右上にある検索ボックスにユーザ ID を入力します。
ルールの設定	[Advanced Setup] > [Policies] >	[Administration] > [System Setup] > [Provisioning Setup]
システム通知の設定	[System Administration] > [Notification Management] > [System Settings]	スタンドアロン：[Administration] > [Provisioning Notification Management] > [Domain Settings] 統合：[Administration] > [Alarm & Event Configuration] > [Notification] > [Provisioning Domain Settings]
ライセンスの管理	[System Administration] > [Monitor System] > [License Information]	スタンドアロン : [Administration] > [System Configuration] > [License Management] 統合：[Administration] > [License Management]
データ パージングのイネーブル化	[System Administration] > [System Maintenance] > [Data Maintenance]	スタンドアロン : [Administration] > [System Maintenance] > [Data Maintenance] 統合：[Administration] > [System Setup] > [Provisioning Setup] > [Data Maintenance]
メンテナンス モードのイネーブル化	[System Administration] > [System Maintenance] > [Maintenance Mode]	スタンドアロン : [Administration] > [System Maintenance] > [Maintenance Mode] 統合：[Administration] > [System Setup] > [Provisioning Setup] > [Maintenance Mode]

INDEX

D

DDV。「Detailed Device View」を参照

Detailed Device View

バックアップ 2-3

復元 2-3

て

データ

バックアップ 2-6

は

バックアップ

Detailed Device View 2-3

データ 2-6

リポジトリ 2-5

ふ

復元

Detailed Device View 2-3

「バックアップ」も参照

り

リポジトリ

FTP 2-5

SFTP 2-5

TFTP 2-5

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。
本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。
「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)
この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。
この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先:シスコ コンタクトセンター
0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)
電話受付時間 : 平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/